

社協だより

2020年11月発行
第179号

発行者／社会福祉法人 吉賀町社会福祉協議会

鹿足郡吉賀町六日市580-4 吉賀町福祉センター内
電話(0856)77-0136・FAX(0856)77-0980
ホームページ: <https://www.yoshika-shakyo.jp>

やさしさとふれあいの町

『くらしもっと』

「社協だよりくらしもっと」の発行は、共同募金助成金を活用しています。本誌に写真やお名前を掲載するにあたり、本人やご家族から承諾を頂いております。



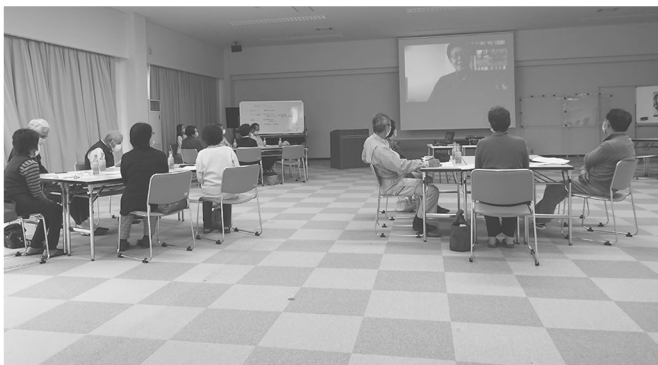
※今月の題字「社協だより」は、桑原多恵子さん（上高尻）の作品です。

←コンテストに参加いただいた、上高尻サロン弁当づくり班の皆さん

令和2年度ボランティア研修会、開催

早速ですが、「2025年問題」という言葉をご存じでしょうか。「ん？なんだか先月も聞いたような気がするな…」そう思われた方、正解です。“団塊の世代”が揃って後期高齢者（75歳）となる2025年以降、どのように人々の暮らしを支えていくのか、国も私たちも真剣に考えていかなければなりません。

そういったテーマに向き合うきっかけとして、配食ボランティアの皆さまを福祉センターにお招きし、「皆さんの思いと力で吉賀町を元気に！」をテーマとしたボランティア研修会を開催しました。講師は、東洋大学の加山弾教授です。普段から接している「つながり」やコミュニティ。皆さまは、そこにどのような意義を感じていますか？“いざという時”に活かせるためには、“日頃”の仕組みやつながりが大切です。時には、コミュニティのみんなで振り返ってみるのも、良いかもしれませんね。



《↑“zoom”を使った研修風景》



《↑身近な課題について話し合いにも熱が入ります》

世界のサロンから



10月某日、晴天にも恵まれる中、蓼野サロンにお邪魔して参りました。この日は、吉賀高校アントレプレナーシップ教育の一環として、高校生2人にもサロンに来て頂き、緊張する中、歌とギターの生演奏を披露して頂きました。選曲も、昔懐かしい歌から、朝ドラの主題歌、みんなで歌える童謡や、身体を動かして歌える「幸せなら手を叩こう」など、随所に会場全体で楽しめる工夫がこらされており、参加者の皆さんも大喜びの一日となりました。

吉賀高校アントレプレナーシップ教育とは？

吉賀町をフィールドに、ありたい未来を実現するためのプランを自分で考え、自ら行動を起こす探究授業。因みに、アントレプレナーシップとは、「起業家精神」と訳されることが多いです。

【演奏してくれた堀田さん、岡本さんへのインタビュー】

(以下、堀：堀田さん、岡：岡本さん)

《今日の企画を考えたいきさつを教えてください。》



〈↑堀田峻祐さん (Vo.) と岡本陸都さん (Gt.)〉

二人：コロナの中、僕たち二人で何かできることはないかと考えました。今日の演目の中で、中島みゆきさんの『糸』を選びましたが、今日、みなさんとも何らかの糸でつながっていると感じることができました。

《準備で苦労したことを教えてください。》

堀：歌よりも、マイクの調整が大変でした。

岡：皆さんが知っていきそうな曲を選ぶのが大変でした。



〈↑若者の演奏に、皆さんウツトリ♪〉

《今日、やってみていかがでしたか？》

堀：皆さんが手拍子だったり、一緒に歌ってくれたのが良かったです。

岡：最初は緊張しました。最初は皆さんと距離を感じたけど、最後は1つになれた感じがして嬉しかったです。

《将来、吉賀町がどんな町だったら良いと思いますか？》

堀：若い世代から高齢者の方々まで、いつでも触れ合える、関わり合いが持てる吉賀町であって欲しいです。

岡：音楽でも、運動でも、小さなことをきっかけに色々な世代と触れ合える町であって欲しいです。



〈↑みんなで記念撮影〉

《将来の夢を教えてください。》

堀：理学療法士 (リハビリ士) です。

岡：スポーツトレーナーとして、色々な世代の方と関わったら嬉しいです。

赤い羽根共同募金 × 吉賀中学校“結”プロジェクト ×

町民ボランティア（七日市地区） × 吉賀町社会福祉協議会

町内の外国人労働者の方々に、吉賀町産の新米を寄贈



吉賀町は、住民における外国人比率が令和2年1月時点で3.5%と県下一になっています。国籍を問わず、住民同士が助け合って暮らせる町づくりを目指して、町内の外国人労働者に町内産の新米を寄贈しました。

皆様にご協力頂いた「赤い羽根共同募金」で調達した新米約650キロを七日市地区の町民ボランティア、吉賀中学校“結”プロジェクトと共同で小分け。町内企業5社へお届けしました。コロナ禍で世の中に閉塞感が漂う中、この日は外国人労働者の方々もホッとしたような笑顔を見せてくれました。

【見守り訪問員制度のご案内】

見守り訪問員が独居・高齢者夫婦世帯のご自宅に伺い、安否確認・話し相手やちょっとした困りごとの支援を行います。

- 利用できる方：町内在住の65歳以上の独居・高齢者夫婦世帯、障がいのある方の世帯
- サービス内容：1か月に2回自宅を定期訪問いたします。
・話し相手・生活上の困りごと相談・簡単な作業のお手伝い 等々
- 利用料金：1回につき100円（月2回の訪問で200円）

※見守り訪問員として活動していただける方も、ご連絡を頂けますと幸いです。

制度に関するお問い合わせは、豊田までお願いします。（TEL：77-0136）

【編集室より】

前号より、エッセイのコーナーを始めてみました。試験的なところもありますが、新聞でいうコラムのような位置づけで考えています。

「サワコの朝」という番組をご存じでしょうか。土曜の朝、週替わりのゲストが登場する三〇分番組です。毎週見ているわけではありませんが、ノーマークのゲストから、思いがけず面白い話が聞けると、ちょっと得した気分になったりもします。この番組の特徴として、毎回ゲストに「心に残る曲」、「今、心に響く曲」をそれぞれ聞き、曲にまつわる思い出話を語ってもらうコーナーがあります。先日、自分の場合はどの曲だろうと考えた機会がありました。

音楽というのは不思議なものです。思い出のこもった曲は、一瞬で「あの時はしんどかったな」「楽しかったな」という当時の感情を、蘇らせてくれたりします。それはまるでタイムマシンのよう。私の場合も、思い出の曲は存在します。その曲は、あるバンドの人生の応援歌といったような曲なのですが、リアルタイムで聴いた当時高校生の私は、彼らの歌詞を理解する土壌がなかったのでしょうか。それから一〇年ほど経ったある日。社会人になって数年目の私は、たまたまラジオから流れてきたこの曲を聞いて、びっくりすることになります。気付くと頬を感動の涙が……。なんでこんな名曲に気付かなかったのだろう。その後、一度処分した彼らのCDを中古でせつせと買い集めたのは淡い思い出です。

同じ曲でも、出会うタイミングで印象は全く変わるものです。これは音楽に限ったことではなく、本でも映画でも、およそ芸術と呼ばれるものは当てはまるのかもしれない。

皆さんの心に残る名曲は何ですか。♪

社会福祉協議会へ御厚志、誠にありがとうございます。

(令和2年10月1日～令和2年10月31日 受付分)

次の方々より社会福祉事業のために
ご寄附いただきました。

《見舞い返礼として》

(敬称略)

寄附者名 住所

坂田千賀子 (蔵木)

入江 公代 (柿木)

《香典・玉串返礼として》

(敬称略)

寄附者名 住所 故人名

福本 博幸 (福川) 福本 英子

松原 宜子 (六日市) 松原チヨコ

崎村 玉男 (広石) 崎村 吉枝



ローソン六日市インター店募金箱設置
十月の募金金額 4,357円
ローソン六日市インター店の協力により、社会福祉協議会の募金箱を設置しています。
皆様の協力に厚く御礼申し上げます。

【赤い羽根共同募金 コラボグッズプレゼント!!】

プレゼント付き共同募金

受付期間は令和2年12月1日(火)～令和2年12月15日(火)まで

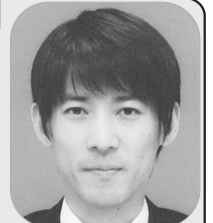
詳細は社協ホームページをご覧ください。

<https://yoshika-shakyo.jp/>



12月の“各種相談会等日程表”(相談はすべて無料)

ひとりで悩まないで・・・



羽柴 貴宏 氏

日時	相談名	相談内容	相談員	場所	予約
14日(月) 10時～12時	法律相談	遺言、相続、贈与、財産分与、多重債務、民事の法律問題等	弁護士 羽柴 貴宏 氏	柿木公民館 (柿木)	必要
18日(金) 9時～12時	ふくし何でも相談	人権侵害、日頃の悩み等	人権擁護委員 民生児童委員	福祉センター (六日市)	不要
			人権擁護委員 民生児童委員	柿木公民館 (柿木)	不要
15日(火) 10時～12時	行政書士相談	遺言書や契約書作成、成年後見制度について等	行政書士 村本 静江 氏	福祉センター (六日市)	必要

日時	催し事名	内容	問合せ先	場所
22日(火) 13:30～15:00	陽だまりの会	認知症の方とその家族の会	地域包括支援センター 77-3123	福祉センター (六日市)

社協の活動への気づき、ご意見等がございましたら、お寄せ下さい。(77-0136)